



▶ヘンロ小屋10号
宿毛[高知]



▶ヘンロ小屋21号
宇和島光満[愛媛]

眼の福・耳の福

interview vol.33



▶ヘンロ小屋49号
肱川源流の里[香川]



▶ヘンロ小屋18号
丸亀城乾[香川]

今、室戸岬のジオパークでのヘンロ小屋の設計が進行中だ。

「ヘンロ小屋プロジェクトは経済的にはマイナスだけど、僕は、周りも自分も明るくなればいいなと思って造っています。地域にシンボルができて、無私の心でのお接待があつて、お遍路さんとふれあつて、そんな大人の姿を子どもたちが見ていて、僕がそうだったように次の世代に繋げて行ければと思います」

人のわ(和・輪)づくりでもあるヘンロ小屋の建設中には子どもたちも集まつて来る。地域のボランティアの人たちと一緒に作業を手伝つたり、タイルに絵を描くなどして、小屋に関わつてもらつている。

残るは34棟。

「お金はどうにかなくても、土地が見つからないことには進まないんです。3〜4坪あればいいのですが、遍路道沿いじゃないとね。今は先を急ぐ人が多くて、1000m反れただけで寄つて行かないから。できればあと10年以内に残りを完成させたいですね」

幼い頃、ヤギやヘビ、トンビを捕まえて飼つていたという歌さん。父親が造つたケージや飼育小屋にいろいろ工夫を加えて遊んでいた。

「あの頃が今の僕の原風景かもしれない」

小屋を通して祈り、人と人、人と自然のふれあいや支え合いの精神を持つ遍路文化の継承と広がりを願う歌さんは空間プロデューサーとしても知られている。

小説・ガリバー旅行記のガリバーをイメージした青少年旅行村を成功させた滋賀県高島町が建設した音楽ホールのある生涯学習センター・アイリッシュパークの設計や、さまざま

な屋根と壁が交差し合つて演出する建物の立体感が目を引く奈良県の修若陀(シューニヤター)など、多種多様な建築設計を行つてきた。

そして実は今、高野山のお坊さんから性同一性障害の人を救うための寺を造りたいという話があり、成田山の近くで進行中だという。

「性同一性障害の人が安らかな時間を持てる空間を考え中です」

―土を踏み、風に祈る。それだけでいい―と独自の世界観をもつ歌さんならではの形が現れるのが楽しみだ。

(取材・文／北島由記子

写真／永井守)

●プロフィール 歌 一洋(うたいちよう)

1948年徳島県海陽町生まれ

77年、大阪市内に建築事務所を開設。

95年近畿大学芸術学科助教授に就任。日本当代100名建築家作品選に選ばれる。現代日本の建築優秀選、ウッドデザイン賞他受賞作品多数。

歌一洋建築研究所 主宰

四国八十八ヶ所ヘンロ小屋プロジェクト 主宰

元近畿大学文芸学部教授

